声

日本農作業学会 50 周年企画—今後の日本農作業学会について—

日本農作業学会のさらなる発展と責務について

瀧川具弘

筑波大学

Tomohiro Takigawa

大学には多くの先生がおられ、それぞれの研究、講義、実習といった課目をご担当されています。自分の専門の担当のみでなく、学生を啓発できるような科目を担当することもあります。毎年同じことを講義するのは何とかなりますが、新しい科目を担当するとなると大変なことになります。今回、訳があって「倫理」を教えることになってしまいました。暗闇で手探りしているような状況です。色々しらべて、「世代間倫理」という科目を担当することにしました。学生のころに倫理を勉強したこともあります。が、「世代間倫理」というと「爺ちゃんと息子」の喧嘩のようですが、確かに世代のギャップに似ていると思います。しかし、「世代間倫理」にはこれまでの倫理と異なるところがあります。登場するのは、今生きている人々とすでに亡くなった人々です。今生きている人々は意見も言えますし、美味しいものも食べられます。しかし、次の世代では、現在の人々がすでに美味しいものを根こそぎ消費してしまった世界に

直面することになりかねません。しかし、農業は特別な機能を持っています。それは光合成で作物を生産する能力であり再生産を可能とします。しかし、土壌の流亡や地力の減少で生産が不可能になることもあります。持続性は常に修復を可能とできるものではありません。この場合にも未来の人々に負担を課することになります。地球では太陽のエネルギーの供給がありますし、作物などの光合成によって食物を得ることができます。しかし、実際には「利用し易い」エネルギー資源はすぐに消費され、時間とともに減少していくことになります。こうした「世代間問題」を解決していかなければなりません。未来の人々には大変申し訳ないのですが、未来世代の人々がしっかり合意して問題解決に立ち向かわねばならない状況です。こうした意味で日本農作業学会は未来の人々が困らない世界をつくれるような研究を展開していく義務を担っていると思います。

2014 年 12 月 11 日受付

2015 年 1 月 31 日受理

Corresponding author

瀧川具弘 Tomohiro TAKIGAWA

〒 305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki, 305-8572 Japan

E-mail : takigawa.tomohiro.ff@u.tsukuba.ac.jp